

令和6年度

久勝小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・進んで学び、仲間と深め、自信をもって学習する児童の育成
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 松本 芽衣	委員	校長 大谷 一幸	教頭 篠原 督人
		教務 大西 誠二	
		低学年 松本 歩	中学年 松家 史弥
		高学年 塩田 さなえ	

校長

大谷 一幸

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観を定期的に行い取組状況の把握を行うとともに、様々な機会を捉えて教員間の共通理解を図る。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算等については、8割以上の児童に定着が見られる。 ●学力に個人差がある。国語や算数での、課題達成率が向上しているが、同時に2極化の傾向が見られる。	・課題に進んで取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・身につけた知識等を使って文章を効果的に表すことができる。 ・学習の過程で身に付けた知識を既習の知識と関連させることができる。	・指導と評価の一体化をめざし、児童の資質・能力を伸ばし、知識・技能を定着させていく。 ・1分間スピーチなど「話す」活動では、自分の体験や考えを表現する手立てとして、テーマや話型を示し、それらを活用することで語彙を増やしていく。 ・定期テストで80点以上の児童8割を目指し、2極化を防ぐため、漢字ノートや計算練習、ミニテストを繰り返し行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習で意見を交換したり、まとめたことを発表したりするなどの表現活動に意欲的である。 ●問題解決のために必要な情報や知識・技能を選択し活用する力が十分には育っていない。	・各授業において、話し合い活動等を通してよりよい解決方法を考えることができる。 ・互いに考えを伝え合う活動を通し、自分の考えや集団の考えを発展させ、それを表現することができる。	・ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、継続的に取り組む。 ・ホワイトボードやGIGA端末を効果的に活用し、協働的な学びを創造していく。 ・発表の仕方や聴き方、話し合いを行う際の仕方や約束事などを明確にして活動を進めていく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○何事にも興味・関心をもって学習に取り組むことができる。 ○方法や手順がわかる学習には真面目に取り組むことができる。 ●自ら問題を見つけて取り組んだり、解決する方法を工夫したりすることに課題がある。	・各教科の学習に粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけてそれを解決しようという意欲をもち学習に取り組むことができる。 ・協働的な学びを通して、互いに教え合い学び合うことができる。	・単元の目標を児童と共有し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・授業の最後や単元の終わりに振り返りを必ず取り入れ、学んだことから、次の学習へのつながりを意識したり、意欲をもって取り組んだりできるように工夫する。 ・SWPBSを実践する。 ・ノーメディアデーを活用し、読書の習慣化を図る。 ・自主学習を取り入れ、児童相互の学びの共有を行い、意欲を高められるようにする。			

令和6度 学力向上ロードマップ

